



エコアクション21
認証・登録番号0000002

令和4年
5月
(隔月発行)
No.257

本社 〒120-0005 東京都足立区綾瀬5丁目24番5号
☎ 03(3606)0119 FAX 03(3606)3339
城南営業所 〒143-0015 東京都大田区大森西5丁目1番25号
☎ 03(3765)6660 FAX 03(3765)6665
松戸営業所 〒270-2231 千葉県松戸市稔台7丁目7番地の1
☎ 047(366)2800 FAX 047(366)2803
柏営業所 〒277-0832 千葉県柏市北柏4丁目1番15号
☎ 04(7167)3883 FAX 04(7164)0120
横浜営業所 〒232-0053 神奈川県横浜南区井土ヶ谷下町28-15
☎ 045(315)4001 FAX 045(315)4091
鳥根営業所 〒696-0003 鳥根県邑智郡川本町因原519-3
☎ 0855(72)0324 FAX 0855(72)2076
<http://www.119suehiro.co.jp>

2022年度全国統一防火標語が決定しました

入選作「お出かけは マスク戸締り 火の用心」

2022年度の全国統一防火標語が決定しました。一般社団法人・日本損害保険協会（船曳真一郎会長）は、防火・防災意識の向上を目的として、1965年度から消防庁との共催により毎年、防火標語を募集、入選作品は全国統一防火標語として防火ポスターに掲載しています。57回目を迎えた今回の全国統一防火標語の募集には、全国から1万4693点の作品が寄せられ、作家の池井戸潤さんなどの選考委員3名による厳正な審査の結果、長崎県・江口雅子さんの「お出かけは マスク戸締り 火の用心」が入選作品に選ばれました。

入選した江口さんは、「思いがけず入選のお知らせをいただき、大変うれしく思います。標語の意図としては、外出時に心掛けていることを、いまの世相も反映し、リズムカルに表現しました」と話しています。

選考委員の池井戸潤さんは、入選

作品について、「今年の応募作品には、新型コロナ禍にある世相を反映したものが多くありました。入選作は、そうした時代性を反映しつつ、平易な言葉で小気味よく日常生活での防火意識を万人に訴える秀作でした。この作中にある“マスク戸締り”が、そういう時代もあったね、と言われる日が1日も早く来ることを祈って止みません」とコメントしています。

なお、2022年度のポスターには、女優の天翔愛さんを起用しています。天翔さんは、「全国の皆さんがこのポスターを見た時、『火の用心』がしっかりと心に留まっているようなそんなポスターになればと思います」と話しています。

同協会ではポスターを約20万枚作成し、全国の消防署や市役所など公共機関に向こう1年間掲出します。



女優の天翔愛さんを起用したポスター

協会では、全国統一防火ポスターをより親しみやすいものにするため、1979年度からポスターのモデルに女優やタレントを起用しています。ちなみに、同ポスターは若手女優やタレントの登竜門とされ、これまでに松田聖子さんや柴咲コウさん、長澤まさみさんらが起用されています。

住宅用火災警報器の設置・維持管理（点検）の必要性について 設置義務化から10年以上が経過 点検、電池交換など適切な維持・管理を

住宅用火災警報器は、新築住宅については平成18年6月から、既存住宅については平成23年6月までの間に設置することが義務付けられました。設置することにより、住宅火災の死者数、焼損床面積を概ね半減、損害額は約4割減らすことができます。

また、検定など合格後、10年以上

経過する住宅用火災警報器は、全国に約9400万台で、これらの多くが現在、各家庭に設置されていると考えられ、電池切れなどにより、火災時に適切に作動しないことが懸念されています。

住宅用火災警報器の維持管理に関する調査では、最近、作動確認を行った世帯の約2.6%で電池切れ故障

が確認されています。

令和3年6月に既存住宅への設置義務化から10年が経過しています。各家庭では、住宅用火災警報器の点検・交換などの適切な維持管理に心がけましょう。



昔からパンデミックの温床は中国？ 感染症に効く万能薬があった？

問1 わが国では、新型コロナウイルス感染症の“第6波”も収まりつつあり、全国的に「まん延防止措置」が解除され、繁華街も賑わいを取り戻しつつあります。一方、世界を見ると、ロシアがウクライナに侵攻、これに対してG7を中心に経済制裁を行い対立が激化、新型コロナウイルスの脅威に加えて、第3次世界大戦になるのでは、という懸念さえあります。戦争+感染症、といえは思い起こすのが第1次世界大戦+スペインかぜです。第1次世界大戦は、1914年7月に始まり、1918年11月に終結し、戦死者は1600万人に上りました。スペインかぜは1918年3月から流行、世界中で幾度かパンデミックを引き起し、戦死者よりはるかに多い5000万人の命を奪いました。このスペインかぜの流行の発生地については、フランス、アメリカ、中国などさまざまな説があり、いまでも論争が続いています。ただひとつ言えることは、多くの専門家の意見として、中国は歴史的にパンデミックの温床ということです。1936年のペスト、1957年のインフルエンザ、2002年のSARSといったように、いずれも中国を起点としてパンデミックが発生しています。

ところで、パンデミックの温床は中国、という図式に従えば、スペインかぜはどうやって中国から世界中に大流行したのでしょうか。

問2 ロシアのウクライナ侵攻で懸念されるのは、新型コロナウイルスの感染拡大です。2月末の時点でウクライナのコロナ感染者は累計で504万人、1日最多4万5000人が感染しています。ウクライナのワクチ

ン接種率は35%に満たず、135の病院が爆撃されていることから、さらなる感染者の増加、重症者を救えない事態になっています。

戦場ではこれまでもさまざまな感染症が発生、世界的な流行のきっかけをつくってきました。日露戦争当時、日本の陸軍は感染症対策として、殺菌力がありチフスなどの感染症にも効く万能薬という触れ込みで、ある薬を兵士の常備薬として持

知ってて
知らない
「体」の常識

たせました。それは为什么呢？ いまでも家庭の常備薬としておなじみのものです。

問3 戦争では、感染症よりもっと恐ろしいのが核兵器。ロシアのプーチン大統領は核兵器の使用をためらわないと発言、世界中から非難の声が上がっています。原爆で被災すると、各種放射線による障害を生じ、生涯にわたり苦しみます。1960年代から1970年代の冷戦下、万一、核兵器が使用された場合に備えて、ソ連や東欧諸国、西側陣営では核兵器の爆発に耐えられるシェルターが大量に作られました。いまでは多くがその役目を終えましたが、プーチン大統領の発言をきっかけにまたシェルターが注目を集め、ロシアと国境が近い国では注文が殺到しているそうです。ところで、冷戦下に作られたシェルターにいまも100万人近くの人々が住んでいる国があります。それはどこ？



ロコモを防止する運動の紹介
本や動画が自治体や各種団体
からいろいろ出ています

⑥⑥ ————— ヌタボ対策

コロナ禍、運動不足でロコモに 若いうちから体を動かそう！

新型コロナウイルスの第6波も落ち着いてきて、全国でまん延防止措置が解除されました。行動の自粛を余儀なくされ、体を動かす機会が減っていただけに朗報ですね。

健康で自覚症状のない人でも、運動をしないと骨や筋肉などの運

動器の機能が低下し、長い間放っておくと要介護になりかねません。コロナ禍でしばらく自宅で運動をせずにいたら、手すりにつかまらなると階段を上れない、片足立ちで靴下をはこうとしたらよろけてしまった。こんな経験をした人も少なくありません。

答えは
4めに
あります

消防庁「令和3年1月～6月の火災の概要」 依然多い住宅火災、死者の7割が高齢者

消防庁はこのほど、「令和3年（1月～6月）における火災の概要」を発表しました。それによれば令和3年1月～6月における総出火件数は1万9918件で、これはおよそ1日当たり110件、13分ごとに1件の火災が発生していることとなります。火災による総死者数は809人で建物火災が666人でした。その建物火災における死者のうち住宅火災における死者は597人。さらに放火自殺者などを除くと549人となっています。

建物火災の死者に占める住宅火災の死者の割合は89.6%で、出火件数の割合55.8%と比較して非常に高くなっています。住宅火災による死者549人のうち、65歳以上の高齢者は411人でした。これを経過別死者数で見ると、逃げ遅れ279人、着衣着

火17人、出火後再進入4人、その他249人となっています。出火原因の1位は「たき火」で1861件、次いで「たばこ」1756件、「こんろ」1400件、「放火」1236件の順となっています。

消防庁では、住宅火災による死者の約7割が高齢者であることから、住宅用火災警報器の設置を推進。平成18年6月から新築住宅への設置を義務化、平成23年6月にはすべての既存住宅への設置が義務化されました。令和3年6月には設置義務化から10年が経過し、老朽化した住宅用火災警報器の交換など、適切な維持管理を呼び掛けています。

大阪ビル火災受け 緊急立入検査実施

総務省消防庁はさきごろ、昨年12月に大阪北区で発生したビル火災を受け、全国の消防本部に対して、この建物と類似の階段が一つしか設置

されていない雑居ビルを対象に、火災時の避難経路などについて緊急立入検査の実施を要請。その結果をまとめ、このほど発表しました。

それによれば、全国3万1967件のうち2万9229件で実施、実施率91.4%でした。避難施設では3894件で不備がありましたが、令和4年1月現在では2196件が改善済みといます。防火戸は1455件で不備があり、同様に614件で改善済みとか。

日向灘・南西諸島でM8級 千島海溝地震で防災対策強化

政府の地震調査委員会はこのほど、南海トラフ巨大地震の想定震源域に隣接する日向灘や南西諸島などで、マグニチュード8級の巨大地震が発生し得るとの長期評価を公表しました。

また、政府の中央防災会議の作業部会は、千島海溝と日本海溝沿いで、想定されたマグニチュード9級の巨大地震について、迅速な避難の徹底で死者を8割減らせるなどとして、防災対策の強化を求める報告書を公表しています。

こうした兆候が出たら、ロコモティブ症候群を疑ってみましょう。ロコモは、加齢が大きな要因ですが、20代や30代でも運動をしないと機能低下が起き始めます。そして、やがてはメタボにもなりかねません。若いうちから体を動かすことが大切です。

日本整形外科学会では、ロコモ度を3段階に分類しています。「ロコモ1」は、低下が始まった段階ですが、問題なく生活できます。「ロコモ2」は、低いいすから立ち上がれない、「ロコモ3」になると、立ち上がるのも歩くのも苦労します。

ロコモを防止するには、運動が欠かせません。毎日、運動する、スポーツジムに通うなど、体をよく動かす人はリスクが少なくなります。日常生活で体を動かし、バランスのよい食事をするのがロコモ予防に大切なのです。

(つづく)

防災 ニュース

東京消防庁管内で住宅火災の死者急増 住警器の適切な維持管理呼び掛け

東京消防庁によると、管内での住宅火災による死者が急増しています。今年に入り26人が死亡、前年同期比で10人増となっています。特に2月に入ってから19人と目立ち、住宅用火災警報器が設置されていなかったケースも確認されており、同庁では適切な設置や維持管理の必要性を呼び掛けています。

住宅火災による死者のうち、65歳以上の高齢者が約8割を占めています。主な出火原因としては「たばこ」が7件、「ストーブ」や「コンロ」「コード」が各2件となっています。

東京消防庁では、「たばこは火源の落下による火災が多く、不始末によるものも目立つ。ストーブなどは可燃物と接触したり、可燃物が落下したりすることによる出火が多い」としています。

また、65歳以上の高齢者の死者22人のうち、約7割が出火時に1人だったといます。1人暮らしは約6割に上っています。死者26人について、住宅用火災警報器の設置状況を見ると、「設置あり」は10人、「設置なし」が9人で、「不明・調査中」は7人でした。

小規模ビル火災の教訓から生まれた 外壁に設置する避難はしご

レスキューラインFX

一般的に、火災の避難時に気を付けなければいけないのは、炎よりも煙とされています。避難時、内階段は煙が充満する危険性があるので、なるべく外階段を使用します。また階段が使えない時は避難器具を使って避難します。

20年ほど前になりますが、2001年9月に新宿区歌舞伎町の雑居ビル火災により多くの尊い命が犠牲になりました。この火災がきっかけとなり2003年6月に消防法が改正され、1階段のみの建物のうち、特に火災時の危険性が高い建物を「特定一階段等防火対象物」と名付けて規制が強化されました。

この消防法改正を受けて、2003年にナカ工業が開発したのが「レスキューライン」です。(当時のレスキューラインを改良したものが現在のレスキューラインFXです)。

レスキューラインFXは、各階の窓から操作が可能で、外壁に取り付けるため室内空間を圧迫せず、改修工事にも対応。使用しないときはコンパクトに収納できます！ また防犯上、地上からの操作はできません。

過去の災害を教訓に、建物利用者へ安心と安全の提供する避難器具をぜひご検討ください。



レスキューラインFXの特徴

- ・雑居ビルでの使用ができるよう、誰でも分かりやすい一動作（ワンタッチ）で展張、避難が可能です
- ・直列降下方式を採用、多人数の連続避難を実現
- ・外付け非難器具のため、室内空間を圧迫しません
- ・四方を囲うように展張するはしごと保護カバー、固定フックで落下防止措置を講じています
- ・固定はしご方式で、危険の少ない前向き乗り降り方式を実現
- ・下階収納方式の採用で収納操作が楽に。メンテナンス時の負担も軽減されます
- ・独自の構造により壁面への荷重負担を軽減し、既存の雑居ビルなどの建物への施工も容易になりました

▼避難はしご「レスキューラインFX」の製品情報・カタログ・CADデータはこちら

<https://www.naka-kogyo.co.jp/products/rescue-line-fx.html>

▼火災発生時の安全な避難について

https://www.naka-kogyo.co.jp/about/products_08.html

クイズのこたえ

問1 カナダの歴史学者によれば、当時、西部戦線の後方支援のため、中国人労働者2万5000人がアメリカからヨーロッパに渡りましたが、そのうち約3000人にインフルエンザに似た症状がみられたとか。スペインかぜは中国で発生、陽性者が労働者としてアメリカ入り、ヨーロッパに移動、戦時下の不衛生な環境も手伝いパンデミックに、という図式が成り立つようです。

問2 正露丸です。日露戦争以前は、クレオソートと称していましたが、戦争でロシア（露西亜）をやっつける、という意味で「征露丸」の名称が流布しました。戦争終結後、国際関係上「征露」は好ましくない、ということで「正露」に改名されたとか。ちなみに、江戸時代、ロシアは「魯西亜」と漢字表記していましたが、明治になってロシア側から「魯」は「魯鈍＝ばか」の意味なので改めて欲しい、と申し入れがあり「露」にした経緯があります。

問3 中国です。80年代、中国国防부는役目を終えたシェルターを民間に貸し出しました。主な居住者は、豊かな生活を求め、北京など都会に出て来た農村出身者です。